十八史略

先従隗始　―訓読―

先従隗始

燕人太子平を立てて君と為す。是れ昭王たり。死を弔ひ生を問ひ、辞を卑くし幣を厚くして、以て賢者を招く。郭隗に問ひて曰はく、「斉孤の国の乱るるに因りて、襲ひて燕を破る。孤極めて燕の小にして以て報ゆるに足らざるを知る。誠に賢士を得て与に国を共にし、以て先王の恥を雪がんこと、孤の願ひなり。先生可なる者を視せ。身之に事ふるを得ん。」と。

隗曰はく、「古の君に、千金を以て涓人をして千里の馬を求めしむる者有り。死馬の骨を五百金に買ひて返る。君怒る。涓人曰はく、『死馬すら且つ之を買ふ、況んや生ける者をや。馬今に至らん。』と。期年ならずして千里の馬至る者三。今王必ず士を致さんと欲せば、先づ隗より始めよ。況んや隗より賢なる者、豈に千里を遠しとせんや。」と。

是に於いて、昭王隗の為に宮を改め築きて、之に師事す。是に於いて、士争ひて燕に趨く。